

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023年 3月 27日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

代表者氏名 山崎 剛志

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山崎 剛志	福祉、経営	H0601040
	②	勝間田 仁恵	福祉	H2001018
	③	岩松 珠美	福祉	H0803046
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	社会福祉法人愛隣会のぞみ保育園			
事業所連絡先	〒	153-0044		
	所在地	東京都目黒区大橋2-19-1		
	TEL	03-3466-0269		
事業所代表者氏名	北村 衛也			
契約日	2022年 5月 13日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 8月 1日			
利用者調査結果報告日	2023年 1月 27日			
自己評価の調査票配付日	2022年 8月 1日			
自己評価結果報告日	2023年 1月 27日			
訪問調査日	2023年 1月 31日			
評価合議日	2023年 3月 13日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023年 3月 24日

事業者代表者氏名 社会福祉法人愛隣会のぞみ保育園 北村 衛也 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念） すべての人に心を尽くして支援します。</p> <p>（方針） 子どもの幸せを第一に考え、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちを支えます。</p> <p>（目標） ・子どもや保護者の思いや気持ちを受けとめます。 ・職員同士よく話し合い、園全体で子どもの育ちを支えます。 ・いろいろな体験を通し、子どもの良いところを伸ばす保育を目指します。</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に課題意識を持ち、サービス向上に取り組む。 ・常に学ぶ姿勢を持ち、スキルアップに取り組む。 ・利用者の思いを受け止め、利用者の立場で理解しようとする。 ・チームメンバーや他部門、他機関と連携し、チームで役割分担をして業務に取り組む。
	<p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念の実践に取り組む。 ・専門職としての誇りと責任を持つ。 ・全体を見て判断する。

調査対象	保育園に通っている園児67世帯81人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。
調査方法	施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。
利用者総数	81
利用者家族総数(世帯)	67
共通評価項目による調査対象者数	67
共通評価項目による調査の有効回答者数	33
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	49.3

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」57.6%、「満足」36.4%の計94.0%であった。自由意見では、「連絡帳を丁寧に書いてくれているので、職員が子どもを一生懸命見てくれるのが伝わります。」「区画された場所なので、安全で安心して預けられます。」「友だちや保護者の方との関わりが、子どもの成長に繋がっていると思います。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもの保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中13問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「個人が興味のあること以外も声掛けをしてくださっています」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	31	2	0	0
「はい」の回答は93.9%、「どちらともいえない」の回答は6.1%であった。 自由意見では、「子ども自身が、園での活動を好んでいます」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	33	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「魚より肉の方が子どもは好きかもしれませんが、バランス良く食べさせてほしいです」「有アレルギーの子どもはちゃんと分けられていると思います」という意見が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	26	6	0	1
「はい」の回答は78.8%、「どちらともいえない」の回答は18.2%、「無回答・非該当」の回答は3.0%であった。 自由意見では、「コロナ禍でも工夫して子どもに体験を提供してくださっています」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	26	2	0	5
「はい」の回答は78.8%、「どちらともいえない」の回答は6.1%、「無回答・非該当」の回答は15.2%であった。 自由意見では、「検診などで途中で園を抜ける際も柔軟に対応してくださいました」「迎えが遅れる場合や急な休みに対してもきちんと対応していただきました」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	28	4	1	0
「はい」の回答は84.8%、「どちらともいえない」の回答は12.1%、「いいえ」の回答は3.0%であった。 自由意見では、「保育時間の様子があまり分かりません」という意見が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	2	0	0
「はい」の回答は93.9%、「どちらともいえない」の回答は6.1%であった。 自由意見では、「コロナ禍でも色々工夫していると感じます」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	29	4	0	0
「はい」の回答は87.9%、「どちらともいえない」の回答は12.1%であった。 自由意見では、「良くアドバイスをいただけるので、大変助かっています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「とても清楚にしていると思います」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	29	2	2	0
「はい」の回答は87.9%、「どちらともいえない」の回答は6.1%、「いいえ」の回答は6.1%であった。 自由意見では、「担任は熱心で良いです」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	1	0	1
「はい」の回答は93.9%、「どちらともいえない」の回答は3.0%、「無回答・非該当」の回答は3.0%であった。 自由意見では、「専門職の方の対応がとても信頼できます」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	2	0	4
「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は6.1%、「無回答・非該当」の回答は12.1%であった。 自由意見では、「素晴らしい対応だと思います」「担任を信頼できているし、子どもの成長も促してくださっています」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	1	0	0
「はい」の回答は97.0%、「どちらともいえない」の回答は3.0%であった。 自由意見では、「子どもは職員たちが大好きだと言っています」「判断する情報は少ないですが、対応してくれていると感じます」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	26	3	2	2
「はい」の回答は78.8%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「いいえ」の回答は6.1%、「無回答・非該当」の回答は6.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	29	4	0	0
「はい」の回答は87.9%、「どちらともいえない」の回答は12.1%であった。 自由意見では、「ある程度はわかりますので大丈夫です」という声が寄せられている一方、「連絡帳で知れるのは屋中の様子だけなので、できればもう少し1日の活動の様子を知りたいです」という意見が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	28	5	0	0
「はい」の回答は84.8%、「どちらともいえない」の回答は15.2%であった。 自由意見では、「問題があった時は丁寧な謝罪があるが、今後の対応策をもう少し示してほしいです」という意見が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	25	5	1	2
「はい」の回答は75.8%、「どちらともいえない」の回答は15.2%、「いいえ」の回答は3.0%、「無回答・非該当」の回答は6.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>様々な機会や豊富な媒体や手段を使って理念や方針等を伝えている</p> <p>園の理念や目標は事務室やホームページに明示しており、園の理念や保育目標、運営方針等を記載した職員マニュアルを職員に配布している。職員マニュアルには法人の基本精神・使命と合わせて園の基本方針と運営方針、保育士倫理綱領、就業規則、園規則、組織図、個人情報保護規程が明記されている。理念や方針の理解に向けた新人研修も実施され、周知が図られている。保護者に向けては、入園のしおりや園だより、ホームページ等を活用して広く知らせている。</p> <p>経営層の役割や責任も職員マニュアルを活用して的確に表明されている</p> <p>経営層としての自らの役割と責任については、職務分担表や組織図などで明示しており、経営者層の役割分担を分掌表で知らせ、口頭と会議議事録で報告している。さらに、職員会議では園長と主任(園長補佐)が総括を行っている。園長及び主任(園長補佐)は出勤後には各クラスを巡回し、子どもや職員の様子を把握しながら、必要な事項へのフォローや保護者への対応を行うようにしている。</p> <p>組織の重要な決定事項は職員会議や園だより、ホームページで幅広く周知している</p> <p>運営面での重要な案件については、組織図を基に決定する手順が明文化されており、多くの重要事項は本部会議で決定されている。理事会や本部会議での決定事項は職員会議で周知している。ホームページにおいて「園のごあいさつ」とともに、決算報告書や事業報告書を公開しており、保護者が園の取組を確認できるように可視化している。</p>			

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者及び職員の意向を的確に捉え、課題を整理して積極的に対応に当たっている</p> <p>利用者ニーズについては、保育参観や行事後には各家庭にアンケートを取り、感想や意見を把握している。また、個人面談や連絡帳などによって意向や要望等を把握し、対応策を検討、確認した上で保護者に伝え、保護者支援に繋がるように対応されている。職員の意向については、職員会議、カリキュラム会議、給食研究会などで意向を確認し、さらに、職員面談を通じても意向や意見を把握し、反映できるようにされている。地域に対しても子ども子育て会議に出席している。</p> <p>法人全体で中・長期計画を立案し、園ではそれに沿って事業計画書を策定している</p> <p>法人と園が目指している理念の実現に向け、中・長期計画書が策定されている。また、これを基に毎年度の事業計画、年間指導計画が策定されている。令和4年度の事業計画は感染拡大が抑えられているという前提の元、前年度踏襲して作成している。1年間、感染対策を行いつつ保育を進める中で、コロナ後の保育のあり方を考えている。当園にはホールがあり、園庭以外にも法人内ミニグラウンドや法人内他施設の園庭等を利用できるため、クラス別でもある程度の保育をすることは可能としている。こうした推進姿勢が保護者から評価されている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

子どもの人権や保育で大切にすることへの意識の喚起や共有を啓発している

保育に従事する職員として守るべき法・規範・倫理などの周知と遵守の面では、新人研修や外部研修受講とともに、就業規則や職員マニュアルなどに明示して周知している。保護者には「園のしおり」で苦情解決についてのシステムや取り扱いの記載と説明を行い、理解を求めています。園内でも苦情の受け付けから解決までの道筋を整えており、第三者委員にまで至る苦情の申し出は、ほぼ無い現状です。

虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている

虐待面の対応については、虐待や不適切な保育に関しての新人研修やマニュアルに関係機関とのネットワーク図が示され、目黒区要保護児童対策地域協議会や子ども家庭支援センター、品川区児童相談所と連携が図れる体制を整えている。事業の透明性を高めるためホームページのアルバムでは、お泊り保育やバス遠足の様子を写真で発信しており、各種おたよりでも報告している。また、通常時には学生の保育実習と体験学習を実施するなど、外部の受け入れも積極的に行われている。

地域の動向や福祉ニーズをくみ取った、透明性の高い運営が継続して進められている

園の活動内容は地域の人の目に触れやすいように各所に掲示されている。また、ホームページでも事業報告書や決算報告書などの情報が発信されている。ホームページの保育の内容は園の保育改革の姿勢、お泊り保育やバス遠足などの行事などが掲載されているが、園のホームページ内のブログが活用されていなかった。コロナ禍において、地域と関わる活動はやむおえず制限を受けていますが、地域会議として要保護児童対策地域協議会や目黒区私立保育園園長会、子ども子育て会議に参加するなど、常に前向きな姿勢で望んでいる。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>子どもの安心・安全を大前提として感染症や事故、災害等への対応を行っている</p> <p>園ではリスクマネジメントとして、子どもの安心・安全を優先としており、現時点では新型コロナ感染症対策に積極的に取り組んでいる。また、日々発生しているヒヤリハット報告とともにリスクマネージャー会議を行い、再発防止策の検討と方向性を話し合いが行われている。子どもの事故に関しても事故報告書の集計を行い、職員会議で発表し、注意を促している。恒常的な感染防止対策の構築とマニュアル化は、新型コロナの感染拡大が繰り返す度見直され、マニュアル化は行っていない。</p> <p>情報管理と運営は従来よりきめ細かく体制を整えた適切な運営が進められている</p> <p>情報保護に関しては、法人で個人情報保護規程を定めており、就業規則、服務規程で情報の取り扱い方法を定めている。個人情報に記載された書類やデータは鍵がかかる保管庫で保管し、アクセス権限の設定及び閲覧制限を行っている。児童票や保育日誌は全てデータで管理している。職員や実習生などは、園で知り得た情報を外部に漏らさないように個人情報保護誓約書を提出してもらっている。保護者には重要事項説明書に個人情報の利用目的を記載し、同意書を得ている。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

職員の安定確保とレベルアップに向けた人材育成に取り組んでいる

職員の採用に関しては法人理念を理解し、必要な人材かどうかを保育園での一次面接、法人での二次面接により、人材の確保に努めている。職員の総合的な育成計画の作成の面では、チャレンジシートによる個人目標を設定して、キャリアアップ研修や0～2歳児保育・3～5歳児保育の研修への参加などが実施されている。一方、キャリアパスの職員理解や人材育成計画の策定の面では、今年度の職員アンケートで課題として上がっている。

法人の考えとキャリアアップとの整合性については分かり易く丁寧な説明が期待される

法人の考え方として人事考課制度を採用しておらず、可能な限り職員間で格差の無い職場を目指している。職員の意識や条件の違いを産み出さず、職員それぞれがその場で頑張れるように、面談や日頃接触する中で相互に認め合う職場を目指している。アンケートでキャリアパスについては職員と経営層との意識の乖離が大きく見られた。それがキャリアアップとどう繋がるのか、処遇改善との連動については、職員に対する学習と説明が行われているが、さらに法人の考えを分かり易く丁寧に説明して理解を求めていくことが必要ではないかと思われる。

職員の就労環境の整備や意欲の向上を図ることに積極的に取り組んでいる

職員の就労環境の整備や意欲向上に積極的に取り組んでおり、年次有休休暇が初年度から20日付与など休暇保障や病気休暇、メンタルな面への配慮、子育て職員が働きやすい職場作りへの努力などを法人全体で取り組んでいる。労働環境の整備に関しては、勤務時間の確保や場所の確保、午睡当番、休憩時間に事務作業した場合の超過勤務の明確化など、安心して働つづけられるように運営を進めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の重点課題として、給食のメニューや味付けなどに工夫を凝らすことを捉え、重点目標に、子どもたちが食べたいメニューを増やすことを掲げた。重点施策として、子どもたちから毎月メニューのリクエストを出してもらい、メニューに取り入れることに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、3~5歳児クラスでメニューのリクエストを話し合ってもらい、出されたメニューを毎月の給食会議で検討することを定例化したことが上手く機能したため、達成に繋がったと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、好評だったリクエストメニューを普段のメニューに取り入れることに拡げて発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

重点課題として、給食のメニューや味付けなどに工夫を凝らすことを捉え、子どもたちから毎月メニューのリクエストを出してもらい、メニューに取り入れることに取り組んだ。重点目標に掲げたことが100%達成できたことは評価できる。要因としては、3~5歳児クラスでメニューのリクエストを話し合ってもらい、出されたメニューを毎月の給食会議で検討することを定例化したことが良かったと思われる。今年度に向けて、好評だったリクエストメニューを普段のメニューに取り入れることに拡げていることでPDCAのサイクルが循環良く機能している。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度は事務時間の確保を重要課題として捉え、重点目標に午睡体制の見直しを掲げた。昨年度の重点施策として、0～2歳児クラス担任が3～5歳児クラス午睡補助に入り、事務作業をすることに取り組んだ。具体的な目標設定をしたが、達成に向けた取組が行われなかった。その理由として、0～2歳児クラスの午睡状況が落ち着き、事務時間が確保できるようになったことを明らかにしている。こうした結果を検証し、今年度に向けて、新型コロナウイルス感染対策の為に午睡体制の見直しを迫られたので、新たな事務時間の確保の取組を展開している。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 事務時間の確保を重要課題として捉え、重点目標に午睡体制の見直しを掲げた。昨年度の重点施策として、0～2歳児クラス担任が3～5歳児クラス午睡補助に入り、事務作業をすることに取り組んでいたが、達成に向けた取組が行われなかった。その理由として、0～2歳児クラスの午睡状況が落ち着き、事務時間が確保できるようになったことを明らかにしている。こうした結果を検証し、今年度に向けて取り組んでいる。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>園生活の様子をホームページの園の生活やアルバムで詳しく紹介している</p> <p>園のホームページは保育園の基本情報(所在地・電話・交通機関・定員・園の特徴と周辺環境・相談お問い合わせ・周辺地図など)や園の生活を掲載するほか、行事の様子を写真入りのアルバムでも紹介している。保育園のカラー刷りパンフレットでは園の紹介や沿革、クラス構成と職員、理念、保育目標、保育園の生活が写真やイラストでわかりやすく纏めている。区のホームページ内には、保育園の所在地や電話番号などの基本情報が掲載されている。</p> <p>見学希望者には希望日程を調整し、随時個別に対応している</p> <p>見学希望者は随時受け保護者の要望に応じて行っている。また、当日でも受入れが可能であれば柔軟に対応している。施設見学の時間は、子どもが遊びや活動をしている様子を見ることが出来るように午前10時頃と午後3時過ぎを設定している。見学者の案内は主任保育士がパンフレットを用いて説明している。施設の見学に留まらず見学者の質問にも丁寧に答えている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園にあたり、入園資料をもとに園の基本的ルールをなど説明している</p> <p>利用開始にあたり、入園が内定した家庭に電話連絡し、入園面接日を伝えている。入園資料一式は郵送し、入園面接日までに提出書類の記入と資料を読んでもらうように保護者にお願いしている。例年2月に行う入園面接では、入園オリエンテーションの資料に沿って保育理念、運営方針、目標と共に保育時間、利用にあたっての基本的なルール、個人情報の取り扱い、災害時の対応などを説明している。園長、看護師、栄養士、担任がそれぞれ説明する分野や確認箇所を分担して入園面接を行っている。</p> <p>子どもや保護者の状況は入園面接を行い、確認事項や保護者の意向を把握している</p> <p>入園面接では、0歳児用と1・2歳児用、3～5歳児用の面接票に沿って入園前の状況や日常生活、育児上の悩み、配慮点などを主に保育士が聞き取り、栄養士は食物アレルギーなど、看護師は健康面の対応をしている。また、説明不足や不明点がないように入園面接チェックリストを用意し、保育、保健、給食、全体の項目について説明をしたらチェックをして確認している。個人情報の取り扱いについては使用目的を伝え、同意書に署名及び捺印のうえ提出してもらっている。</p> <p>入園直後の環境変化や利用終了後の支援の継続性に配慮している</p> <p>利用開始直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、入園面接で「慣れ保育」について説明している。慣れ保育は通常3日間を基本とし、0歳児は1日目に親子で一緒に保育室で過ごしてもらい、食事を保護者に食べさせてもらっている。1歳児は食事のみ一緒に過ごしてもらうなど年齢や通園歴があるなどを考慮しながらすすめている。利用終了時は、継続した支援に繋げるために「卒園、転・退園される方へ」のお手紙を渡し、いつでも相談にのること、相談がなくても気軽に訪問してきてほしいことなどを伝えている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもの情報は一人一人記録し、定期的に見直しが行われている</p> <p>子どもの心身状況や生活状況等は、日誌や月間指導計画に記録して把握している。子どもや保護者のニーズや課題については、新入園の子どもについては入園面接、在園の子どもについては個人面談を実施して確認し「個人面談記録」に記載している。共有内容はクラスノート等に記入している。</p> <p>全体的な計画をもとに系統立てた指導計画を立案し、保育を実践している</p> <p>指導計画は、園の大切にしている保育理念、運営方針、保育目標に向けて作成した全体的な計画に示した養護と教育の各項目を基に、それぞれの年齢の年間・期に照らし合わせながら年間指導計画、月間指導計画を作成している。月間指導計画のより具体的な保育内容は日案を作成して、保育の実践をすすめている。個別の指導計画は、特別な配慮が必要な子どもと0～2歳児クラスで作成し、毎月見直しを図っている。年度当初の懇談会では、クラスごとに年間指導計画を配り指導計画の内容を説明している。</p> <p>子どもや保護者の状況等は会議や各クラスの引継ぎノートで情報を共有している</p> <p>子どもの情報は、保育ソフトで管理されており、指導計画の内容や個人の記録などは、カリキュラム会議で報告・検討して保育に反映している。子どもや保護者の日々の状況変化については、各クラスの引き継ぎノートで情報共有している。また、カリキュラム会議やフロア会議で報告を行い、会議に参加していない職員は会議録で確認し、情報共有に努めている。</p>			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>プライバシー保護や子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている</p> <p>個人情報の取り扱いについては、入園時に説明をして同意書の提出をしてもらっている。子どもに関する情報を外部とやりとりする場合は、保護者に提出する機関、内容を示して確認をしている。子どもの羞恥心に配慮するために、4・5歳児はプール、汗流しの時に、異性の前で裸にならないように配慮している。また、身体測定の際も男女別に行っている。看護師によるプライベートゾーンについての保健教育を通じて大切なところは人に見せたり、見たりしないことを子どもたちにわかりやすく伝えている。</p> <p>子どもの人権を尊重した保育に努め、虐待への理解を深めるために研修を行っている</p> <p>保育の中で子ども一人一人の自尊心の尊重を大切に考え、子ども一人一人の育ちを理解して、子どもの思いをくみ取り子どもの立場にたった援助をしている。園は虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて理解を深めるために法人や外部の研修に参加している。園内で万が一虐待が疑われるような場合は、区、子ども家庭支援センター、児童相談所などの関係機関に連絡し、連携を図る体制を整えている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルの整備を行い、見易く参照することが出来るように配置している</p> <p>園の事業運営や保育に関するマニュアル類は全体を通して細かく定められ、法的に整備が必要とされている規程類と共に纏められ、事務所に配備するほか職員一人一人に配布し、いつでも見られるようにしている。保育や業務の点検に活用しながら職員会議の場において、園長・主任が中心となって定期的に反省・見直しを行っている。</p> <p>第三者評価の受審を積極的に進めており、職員の意見を参考に業務の見直しも行っている</p> <p>業務運営に関する職員からの意見などは職員会議に議題として挙げられ、検討後、反映されて職員の負担軽減を考慮しながら、午睡体制と事務時間の確保など安心して働き続けられる職場づくり及び指導計画や保育計画が策定され見直し・検討が行われている。法人では業務推進のために第三者評価の受審を積極的に進めており、全職員が効率よく共有して効率の高い業務運営が進められている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの全体的な姿を把握し、子どもが主体的に遊べる環境設定に努めている</p> <p>子ども一人一人の全体的な姿を捉えるために、入園面接で子どもの発達状況や発達過程、家庭の情報を面接票に記載して、職員間で共有を図っている。また、登降園のやり取りや連絡帳からも子どもの現状を把握し、配慮に繋げている。子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるように、子どもの年齢や発達、特性を活かした保育環境の設定に努めている。子どもが興味をもって遊べるコーナー遊びを取り入れ、子どもが自らやりたい遊びを選択できるようにしている。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたり、専門家と連携を図って援助している</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、特別な配慮が必要な子どもを含めて、子ども一人一人を大切に保育を心掛けている。支援方法などについては、担任任せにせず、みんなで話し合って園全体で支援をしている。検討が必要なケースはケース会議で時間をかけて検討している。発達の専門家と連携を取り、子どもの特性に対する援助方法などのアドバイスをもらっている。また、加配の保育士が付いたり、フリー保育士や非常勤保育士が付いて人的環境を整え、クラスの一員として活動できるように援助している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>登園時は家庭での状況を把握して受け入れ、降園時に子どもの様子を伝えている</p> <p>登園時には一人一人とコミュニケーションを図り、家庭での子どもの様子を保護者に聞くと共に健康観察を行い気になることがあれば確認をしている。保育への配慮に必要なことは、各クラスの引き継ぎノートに記載して共有している。降園時には、その日の子どもの状況を短めに保護者一人一人に直接伝えるように努めている。0～2歳児は連絡帳を活用して園での様子を記載し、3～5歳児は今日の活動として、クラスの全体的な様子をボードに掲示して伝えている。また、必要時は3～5歳児も連絡ノートで保護者とやり取りをしている。</p> <p>基本的な生活習慣の獲得や休息の長さや時間帯は家庭と連携して取り組んでいる</p> <p>保護者には、個人面談やおたよりで基本的な生活習慣や生活リズムの大切さを伝えている。日々の連絡帳や登降園時の会話、個人面談などで個々にわかりやすく伝え、個人差に配慮しながら個々に合った援助につなげている。休息(午睡)の長さや時間帯は子どもの状態や体調にあわせ対応するように心がけており、子どもの状況に応じて朝寝、夕寝を取り入れている。5歳児は、年度後半、遅く午睡に入る日を設け、年明けには寝ない日を設け、就学に向けた生活リズムの確立に取り組んでいる。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>自ら遊びを展開できるような環境設定と集団活動に主体的に関われるように配慮している</p> <p>保育室は、遊びのゾーンやコーナーを設定し、好きな遊びを選んで十分に楽しめる空間の配慮をしている。子どもの発見や探求心を保育者自身が把握し、保育のねらいと配慮点、環境設定を計画して保育を行っている。子どもが、集団活動に主体的に関われるように、一人一人の思いを受け止め、集団生活に入れない子どもに声掛けなどの配慮をし、その子どもに合った援助をしている。保育士は子どもにとっておおきな「人的環境」となるため、子どもに対し常に肯定的な捉え方に努め、否定語を使わないなど子どもへの声掛けの大切さを日々意識して保育している。</p> <p>子どもが様々な関わりの中で話すことを楽しみ、言葉による伝え合いを学んでいる</p> <p>絵本や様々な題材を通して、言葉の豊かさや友だち、保育士との会話を通して言葉の触れ合いを大切にしている。日々の保育の中で、言葉で相手に伝えられるように、年齢や発達に配慮しながら取り組んでいる。0・1歳児は発語に繋がるような指さしも大切にしている。2歳児は集まって話すことから始め、3～5歳児クラスになると、クラスのみならず輪になって話し合う時間をサークルタイムと名付けて子どもたちで話し合うことを大切にしている。また、当番活動や行事を通して、みんなの前で発表し自信に繋がる活動を行っている。</p> <p>日々の保育の中に年齢に合った表現遊びを取り入れて楽しんでいる</p> <p>日々の保育の中に年齢に合った表現遊びを取り入れて、運動会やお楽しみ会に向けて楽しく取り組めるように工夫している。造形では、4・5歳児が外部講師による絵画教室を実施している。年に1回段ボール制作に取り組み、子どもたちが表現力豊かな立体的な作品を作り上げている。戸外活動では、法人の福祉施設が1か所に集まっているため、園庭だけでなく、グループの他の施設のグラウンドや前庭を利用して遊んでいる。樹木も多く、季節の移り変わりを感じながら自然散策を楽しみ、制作活動などにも活かしている。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが興味をもって楽しく取り組めるような行事を実施している</p> <p>季節ごとの日本古来より伝わる七夕やもちつき、節分、ひなまつりなどの行事は、由来と意味を年齢ごとにわかりやすく伝えながら子どもたちに伝承し、制作物や歌など季節の楽しみを味わうように大切に取り組んでいる。その他、子どもが楽しむ遠足やお泊り保育、園外保育、夏まつり、運動会、芋掘り遠足、焼き芋、お月見団子作り、おたのしみ会、クリスマス、お店屋さんごっこなどの行事を行っており、内容や取り組み方を会議で検討して工夫している。</p> <p>子どもが積極的に行事に取り組めるように、準備を進める過程も大切にしている</p> <p>3～5歳児クラスでは、日々の保育でサークルタイムを設けており、話し合う機会を重ねることで、例えば行事には、どんなことや物が必要かなどを話し合い、役割を決めて準備したり、練習したりするなど、積極的に取り組む姿がみられている。運動会やお楽しみ会、夏祭り、お店屋さんごっこなどの行事は、みんなで協力して取り組み、達成感や満足感を感じられるような内容にしている。</p> <p>子どもが意欲的に行事に取り組めるよう保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</p> <p>年度当初には、保護者に年間行事予定表を配布し、懇談会などで行事について説明をしている。連絡ノートやクラスだより、登降園時に取り組んでいる様子などを知らせ、保護者にも共感してもらえるように努めている。行事前には掲示や手紙の配布で保護者に協力して欲しいことなどを早めに知らせている。行事終了後にはアンケートで保護者の要望や感想を把握し次年度に繋げている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるように、子どもが遊びや休息などをとりながらゆったりと過ごせる配慮や異年齢児との関わりを楽しみ、色々な遊びに興味をもてるように配慮している。発達やクラスの様子から、17時30分までクラス保育を行い、その後は合同にするクラスや保育室をきめ細やかに設定している。延長保育は0～5歳児が1歳児クラスを使って過ごしており、朝・夕、延長時の保育用の遊具を用意するなど、楽しく過ごせるように配慮している。</p> <p>保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるように配慮している</p> <p>全体会議やフロア会議で子どもの様子を全職員が共有できるようにしている。延長保育専任の保育士を入れ子どもや保護者が安心できるように配慮している。また、延長専任の調理員がおり、手作りの補食を提供している。登園時の様子や保護者からの情報を職員間で共有し、職員配置をしっかりと行うことで、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるように配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>子どもの発達段階に合わせた食事環境を設定し、落ち着いて食事をとれるようにしている</p> <p>0歳児クラスは食事専用の部屋があり、落ち着いた環境で1対1の援助をしながら子どもの様子をしっかりと把握して離乳食を進めている。1歳児は2グループに分かれて、コーナーを利用して少人数で落ち着いて食べられるように工夫している。2歳児はテーブルに付く席を子どもの様子で決めている。3～5歳児は、本来はホールで3クラス一緒に食事をしているが、感染症の状況を考慮し、社会的に拡大傾向にある場合は各クラスで食事をしている。3～5歳児は、自分の食べる量を自分で決める申告盛りに取り組んでいる。</p> <p>体調や食物アレルギー、離乳食など子どもに合わせた食事の提供に努めている</p> <p>0歳児については、離乳食会議を週1回行い、離乳食進行状況一覧をもとに、安全な食事を提供している。食物アレルギーのある子どもについては、医師からの指示書を基に、保護者、栄養士、看護師、担任、主任で面談を行い配慮食の内容などを決めている。また、宗教や体調に配慮した食事の提供もしている。食物アレルギーや宗教、体調などに配慮する際には、献立表や配慮食届を確認し、誤配・誤食のないようにしている。</p> <p>旬の食材を知り色々な食材に興味をもてるようにさまざまな食育活動を行っている</p> <p>食事は、旬の食材を取り入れ、素材の味を感じられる薄味で提供を行っている。献立は2週間のサイクルメニューを取り入れており、給食会議や検食記録から子どもたちの好みや状況を把握して次のメニューに活かしている。3～5歳児を中心に季節に合わせた栽培活動やクッキングを行っている。また、3～5歳児クラスで順番を決め、月に1度リクエストメニューの日があり給食だよりも保護者に知らせている。季節ごとの食材に触れ栽培をすることで旬の食材を知り色々な食材に興味をもてるようにさまざまな食育活動を行っている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>子どもが健康で安全に過ごせるように、保健行事や保健教育を行っている</p> <p>子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように、保健年間計画を作成し、看護師が中心となって保健行事や健康教育を行っている。看護師による手洗いやうがいの指導を年齢に配慮しながら実施したり、歯科衛生士による歯磨き指導を行ったりしている。1歳児以上は、食後に歯磨きを実施している。区の主催の交通安全教室に5歳児が参加し、横断歩道の渡り方や道路の歩き方などの交通ルールを学ぶ機会を設けている。</p> <p>保護者と連携をとって、子ども一人一人の健康維持に向けて取り組んでいる</p> <p>保護者には、季節によって流行る感染症や気を付けた方が良いことを保健だよりや園だよりで伝えている。感染症が発症した場合には迅速に掲示にて伝え、拡大防止に努めている。アレルギーや救急対応、感染症などについて保健講座会を実施して保護者に適切な情報を伝えている。乳幼児突然死症候群の予防については、保護者にリスクなどを説明すると共に午睡チェックを実施している。また、0・1歳児クラスは、午睡センサーも併用している。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>個々の家庭や就労状況に合わせて保護者に寄り添い柔軟な対応に努めている</p> <p>保護者の子育てや就労等の個々の事情に配慮するために、家庭環境や就労状況に合わせて保育時間を決定し、急な残業等で迎えが遅くなる場合はその都度対応ができるように努めている。今回の利用者調査からのコメントからも柔軟な対応を行っていることが窺われる。保護者同士が交流できる機会として、クラス懇談会を年2回開催している。懇談会では、子どもの成長・発達に沿ったテーマを決めて話し合う機会を設けている。また、父母会主催のクラス交流会を行っている。</p> <p>保護者と職員の信頼関係を深め、子どもの育ちに関する共通理解の形成に取り組んでいる</p> <p>当園では、家庭との連絡ノートに0～2歳児だけでなく3～5歳児にも取り入れており、0～2歳児までは子どもの様子を毎日記入し、3歳児以上は週一回以上、子どもに関するエピソードを記入するなどして園での子どもたちの様子を保護者へ伝えている。登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に行い、クラスだよりで子どもの様子を伝えたり、園だよりの主任のメッセージで働きかけ方などを伝えたり、保護者と子どもの発達や育児などについて共通認識を持てるように努めている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験ができるような機会を設けている</p> <p>同じ法人内に学童クラブがあり、5歳児は就学前に学童クラブのハロウィンパーティーの招待を受けている。コロナ禍のため、小学生が学校に行っている午前中に訪問し、ゲームコーナーを楽しんだり、自由遊びを楽しんだりしている。コロナ禍前は小学校の作品展覧会を見に行く機会や授業参観に行ったり、近くの保育園と交流をしたり、法人内の老人施設とも交流をしていた。地域の環境を活かした今後の取組に期待している。</p> <p>子どもが職員以外の人と交流できる機会を設けている</p> <p>子どもが園の職員以外と交流する機会として、近隣の中学生や高校生の職場体験の他、保育実習生の受け入れ、外部講師による3・4・5歳児の体操教室、4・5歳児の絵画教室などがある。また、警察騎馬隊による交通安全教室や区役所、消防署の協力のもと行われる起震車・煙体験、はしご車を見学するなどの防災学習を実施している。また、法人内の敷地で自転車練習をしたり、中庭を利用して遊んだりしている。例年は、夏祭りに地域の人も参加してもらい、5歳児はお店を出して交流をしている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	外部講師による体操教室や絵画教室に取り組み、専門的な活動も取りいれている	
内容①	保育目標の一つに「いろいろな体験を通し、子どもの良いところを伸ばす保育を目指します」とあり、日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう指導計画を立案して保育を実践している。日中活動ではクラスの友だちと一緒にままごとやブロックで遊んだり、散歩に出かけ自然に触れたり体を動かして遊んだり、制作活動をしたりしてさまざまな体験をしている。また、子どもたちが多くの体験を重ね、心豊かに成長していくように、外部講師による体操教室や絵画教室に取り組み、専門的な活動も取りいれている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	子どもの食への興味・関心を引き出し、楽しく食事ができるよう工夫している	
内容②	食事は、身体の基本を作る大切なものであるため、素材にこだわり、行事食や季節感のあるメニューを取り入れ、栄養バランスを考えたおいしい食事の提供に努めている。3～5歳児は、自分の食べられる量を申告する事で、苦手なものも自分から食べられるようになってきている。また、月に1度リクエストメニューの日があり、3～5歳児クラスで順番を決めて取り組んでいる。子どもの食への興味・関心を引き出し、楽しく食事ができるよう工夫している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	コロナ禍でも子どもたちが多くの体験ができるように工夫している	
内容③	例年、4歳児になると保育園に泊まる宿泊訓練を行い、5歳児で宿泊施設に泊まるお泊り保育を実施している。移動手段は、電車やバスなどの公共の交通機関を利用し、公共のマナーや社会性を身に付ける機会にもなっている。近年は、コロナ禍で様々な活動が制限される中でも、工夫しながら取り組んでいる。感染防止のため貸し切りバスで移動したり、貸し切り利用が可能で密が避けられる宿泊施設を利用したり、日帰りバス遠足を行って園舎に宿泊したり、少しでも子どもたちが楽しめるように工夫しながら実施し、子どもたちの豊かな体験に繋げている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	旬の食材に触れる機会を大切に、さまざまな食育活動を通じて、子どもの育ちを支えている
	内容	食育目標として「健康な体を作る食習慣を身につける」「食物に関心を持ち、意欲的に食べる」「マナーを身につける」を掲げ、さまざまな食育活動に取り組んでいる。旬の食材に触れる機会を大切にしており、栽培活動や調理保育に取り組んでいる。お花見ランチやリクエストメニュー、誕生会メニュー、行事にちなんだメニューなど子どもがわくわくするような食事を提供している。塩焼きのさんまの骨を取る体験を行ったり、栽培した野菜を収穫して食べたり、うどん打ちやクッキー作りなど、さまざまな食育活動を通じて、子どもの育ちを支えている。
2	タイトル	特別な配慮が必要な子どもを含めて、子ども一人一人を大切にされた保育を心掛けている
	内容	基本理念に「子どもの幸せを第一に考え、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちを支えます」とあり、特別な配慮が必要な子どもを含めて、子ども一人一人を大切にされた保育を心掛けている。個別の配慮など、支援方法については、みんなで話し合って園全体で支援をしている。検討が必要なケースはケース会議で時間をかけて検討している。加配の保育士を付け、職員体制を整えて手厚い保育を実践している。保護者との信頼関係の構築に努めており、今回の利用者調査結果の全体満足度で約94%が満足と感じており、高い評価を得ている。
3	タイトル	子どもが多様な活動のなかで多くの体験を重ね、心身共に健康な子どもを育てている
	内容	法人の福祉施設が1か所に集まっているため、園庭だけでなく、グループの他の施設のグラウンドや前庭を利用して遊んでいる。樹木も多く、季節の移り変わりを感じながら自然散策を楽しみ、制作活動などにも活かしている。また、外部講師による体操教室や絵画教室など専門的な活動にも取り組んでいる。園舎の周辺には公園のほか、大学、私鉄沿線、高速道路のジャンクションなどがあり、天気のいい日にはクラス別に散歩先を選んで出かけている。子どもが多様な活動のなかで多くの体験を重ね、心身共に健康な子どもを育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	PDCAサイクルによるリスクマネジメントの取組が、これからも継続に期待している
	内容	リスクマネジメントの一環として、リスクマネージャー会議を主任、0～2歳児・3～5歳児リーダーの3人で、日々発生しているヒヤリハット報告内容の精査や事故における再発防止策の検討と方向性を話し合い、その内容を安全対策会議で報告している。これは、保育所保育指針における、保育所においては、一人一人の子どもの安全の確保に努めなければならないため、そのリスクを最小限にする取組が行われている。誰でもあってもリスクに気づき、事故を回避できる仕組みづくりに向けた、例えば危険予知能力の訓練などを行ってはどうだろうか。
2	タイトル	様々な限界がある中でも、園長や経営層の積極的なリーダーシップで職員の指導に取り組まれることを期待する
	内容	今回評価の職員アンケートを全体的に見ると、保育サービス分野ではリーダー及び一般職員層で各項目での評価に比較的肯定的な評価であったが、組織マネジメント分野ではどの層でも否定的な兆候を示す度合いが高く、ばらつきも大きい傾向が示されていた。また、職員からはICT化の導入や休暇が取りやすい環境を求める意見も出されている。専門職としての職員間の経験の差といった難しい点も考えられるが、リーダーをはじめとする経営層の積極的なリーダーシップでの指導を進展されることを期待される。
3	タイトル	保護者への対応や情報発信などの面では、より一層丁寧な配慮も望まれる
	内容	コロナ禍での人数制限やクラス別の行事の設定など、園の運営も変則的になり、大きな影響があったことも考えられるが、今回の利用者アンケートは総じて良い結果が出ている。一部の保護者から厳しい意見も見られた。職員体制が厳しい中で、職員によっては保護者対応の面で配慮や、言葉遣いなどへの意見があり、園での子どもの様子など、もう少し丁寧に説明する余裕が職員にあるとさらに良くなるのではないだろうか。保護者との信頼関係があつての共育てといえるのではないだろうか。